

# 株主通信

2015年度 中間報告書

2015.4.1 ▶ 2015.9.30

## 株主の皆様へ



千代田化工建設株式会社  
代表取締役社長

澁谷省吾

平素より千代田グループへのご支援を賜り心からお礼申しあげます。

ここに、当社グループの2015年度中間期（2015年4月1日から2015年9月30日まで）の概況についてご報告申しあげます。

中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」は後半に入りました。当年度は、前半2年間に推し進めてきた「成長戦略」「基盤整備」をより一層加速し、収益成長企業として更なる進化を目指しています。

コア事業であるLNG分野では、現在遂行中の豪州、北米、ロシアでの案件に加え、新たにモザンビークでのLNGプラント建設案件のコントラクターに選定され、当社のポジションを一層確かなものにしております。もう一つのコア事業である石油・化学・金属分野とともに、今後も技術研鑽に努め、競争力を維持・強化してまいります。

収益源の多様化を目指して取り組んでいる新規事業では、オフショア・アップストリーム分野においてサブシー（海中・海底）関連の設計・調達・建設・据付（EPCI）業務を遂行する新会社を設立し当年度中に運営を開始するほか、iPS細胞の活用や再生医療分野に注目しつつ生化学（ライフサイエンス）分野での事業拡大を図ってまいります。

原油価格低迷の長期化や世界各地の地政学的リスクの高まりにより事業環境の不透明感が増すなか、一歩先を見据えて、新たな時代を切り拓いていく気概をもって中期経営計画の施策を推し進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

# 中期経営計画 現況報告

2013年度に策定した4カ年の中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」は、当年度から後半の2年間に入りました。これまでに推し進めてきた「成長戦略」「基盤整備」の進捗状況は以下のとおりです。

## 1 成長戦略 コア事業の強化

シェール革命の中心地である北米では、大型LNGプラント建設案件の着実な遂行に加えヒューストン拠点の機能を拡充し、現地顧客に対しエンジニアリングサービスの提供を新たに開始しました。また、東アフリカ・モザンビークでのLNGプラント建設案件のコントラクターに選定されるなど、グローバルな遂行体制を拡充しつつコア事業であるガス・LNGプロジェクト分野を強化しています。

## 2 成長戦略 オフショア・アップストリーム分野の取り組み

シンガポールのEzra Holdings Limited社とともにサブシー（海中・海底）関連の設計・調達・建設・据付（EPCI）業務を遂行するEMAS CHIYODA Subsea社を設立し当年度中の運営を開始します。これにより、サブシー分野の開発段階における設計からEPCI、さらにはオペレーション・メンテナンスまでの資源開発バリューチェーンの全フェーズを遂行する体制が整います。

## 3 成長戦略 その他の新分野の取り組み

iPS細胞の活用で代表される再生医療を軸としたライフサイエンス分野の事業拡大を図るべく社内体制を整備しました。また、新エネルギー関連では自社開発技術である水素の大量貯蔵・輸送技術がNEDO\*の「水素社会構築技術開発事業／大規模水素エネルギー利用技術開発」に採択されました。引き続き、国を挙げた水素社会実現に向けた取り組みに貢献してまいります。

\*国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

## 4 基盤整備 オペレーションインフラの整備と要員配置最適化

データマネジメントインフラ整備の一環で、国内外のグループ会社への経営基幹システムの展開を継続しており、当年度末には主要な国内子会社への導入が完了する予定です。また、来年度からの運用開始を目指し、海外拠点間の機動的な人材移動を促進するグローバル人事制度の整備を進めてまいります。

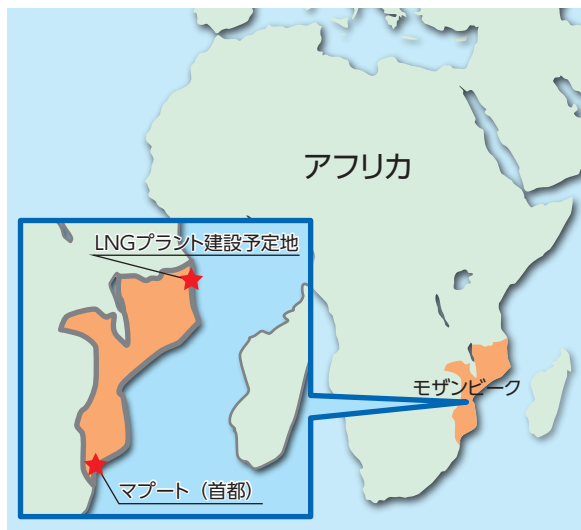
# トピックス

## 豪州・ロシア・北米・モザンビーク / 挑戦を続けるLNG分野

LNG分野では、世界各地で大型プロジェクトが進行しています。豪州のイクシスLNGプロジェクトとロシアの極寒地でのプロジェクトが順調に進み、工事効率の向上と厳しい現場施工環境の克服のために取り入れているモジュール工法などの様々な工夫を大きな成果に結び付ける時期を迎えています。北米でもキャメロンLNGとフリーポートLNGが昨年末から現地工事に入るなど、着実に進捗・成果を上げています。

また、フリーポートLNGの増設プロジェクトの受注やモザンビークの巨大ガス田開発におけるLNG設備のコントラクターに選定されるなど、LNG分野におけるリーディングコントラクターとして築き上げたお客様の信頼を成果に結び付けています。

これらの大型プロジェクトを着実に遂行することはもとより、競争力の維持・強化のための技術研鑽に一層励み、さらなる飛躍を目指してまいります。



## 日本 / 水素社会実現への取り組み

究極のクリーンエネルギーとされる水素の利用を拡大させ本格的な水素社会の実現を目指す取り組みが、政府主導の下、スタートしました。これは、家庭用燃料電池や燃料電池自動車の市場導入による水素エネルギーの利活用の取り組みに加えて、海外から大量の水素を消費地（日本）まで運ぶ水素サプライチェーン構築に向けた世界に例のない取り組みです。

当社は、世界に先駆けて開発に成功したSPERA\*水素®（水素を容易に“貯める・運ぶ”ことができる技術）を活用してこの事業へ参画し、水素社会実現に向けて貢献してまいります。

\*SPERA（スペラ）：ラテン語で「輝く、希望」等の意

## 日本 / ライフサイエンス分野の事業拡大

当社は、バイオ関連技術や医薬品製造技術、そして宇宙ステーションでの実験設備などの実績を豊富に有しており、当社のエンジニアリングによって今後ライフサイエンス分野においても付加価値の提供ができると捉えています。

iPS細胞の活用や再生医療の分野では、これから開発・工業化される製品や関連プロジェクトが数多く見込まれます。当社はiPS細胞の作成に活用されるベクター\*を世界で初めて医薬品製造基準で製造する施設的设计・調達・建設（EPC）業務を受注するなど、従来のコントラクターの枠にとらわれず、速やかな工業化へ向けた製品開発段階からの支援を含め、ライフサイエンス分野のトップランナーを目指してまいります。

\*ベクター：治療用の遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質

## サウジアラビア / スポンジチタン製造プラントのEPC業務受注

本年4月、当社は、グループ会社である千代田ペトロスター社および提携先である台湾CTCI 社のサウジアラビア子会社との共同で、東邦チタニウム(株)とAMIC社（サウジアラビア）より、サウジアラビア王国におけるスポンジチタン製造プラント（年産15,600トン）のEPC業務を受注しました。

スポンジチタンは、航空エンジン・機体素材、プラント配管・熱交換器など様々な分野で利用されている先端素材です。LNGや石油・石油化学以外のいわゆるノンハイドロカーボン分野にも積極的に取り組んでまいります。

## ベトナム・カタール / 石油精製プロジェクトの現況

当社のルーツともいえるべき石油・石油化学分野では、技術のコモディティー化の進展により競争が激化し、案件の採算も厳しくなっています。このような環境下でも、当社の培ってきたノウハウを活かして高難度の大型プロジェクトをベトナムやカタールで着実に遂行しています。

中期経営計画に基づき、カタールで実践している地域オペレーション体制を、市場の拡大が見込まれる東南アジア地域でも展開すべく整備しました。先達の築いた技術の継承とグループ会社の育成を図り、安定的な収益源となる事業を着実に築き上げる取り組みを行ってまいります。



進捗するカタールのラファンリファイナリー拡張工事

# ここをチェック!

## 日本初、海洋プラント分野のEPCI遂行体制を確立へ ー日本のエネルギー・セキュリティ確保への貢献に向けてー

本年8月27日に発表したとおり、当社グループはサブシー（海中・海底）分野の設計・調達・建設・据付（EPCI）業務に参画する体制を整えております。

当社は創業以来石油・ガスなどのエネルギーに携わっていますが、油田・ガス田から産出する原油や天然ガスを陸上で製品化する設備（製油所やLNG設備など）の建設が主要分野で、その上流側にあたる油田・ガス田から陸上設備（海上プラットフォームや洋上で製品化するFPSOを含む）までの海洋プラント分野へは参画できていませんでした。

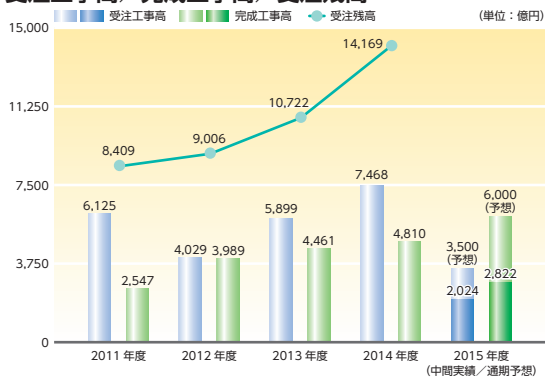
深海でのサブシー分野のEPCIを遂行できる企業は日本にはなく、陸上プラント分野と同じ規模といわれるこのマーケットは欧米のコントラクターに独占されている状況でした。一方政府も、日本の領海内に豊富に埋蔵されている資源の有効活用や、日本の石油・ガス開発会社の海外展開を踏まえ、海洋基本計画の中で日本企業の海洋プラント分野への進出が急務と位置付けています。また、この技術は将来エネルギーとして期待され日本近海に存在するメタンハイドレートの開発にも応用できるものです。



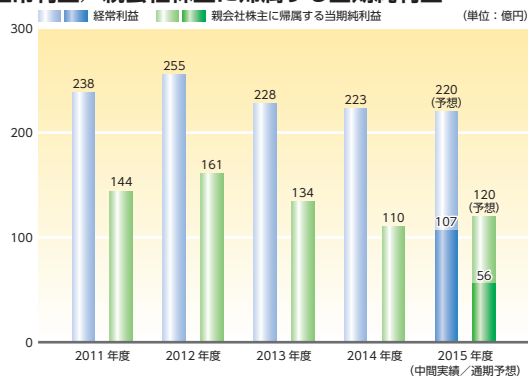
当社グループは、2013年に策定した中期経営計画の中で、海洋プラント分野を成長戦略の一つと位置付け、英国の海洋分野等のコンサルティング会社Xodusグループと資本提携するなど着々と施策を実行し、日本のエンジニアリング会社で初めてサブシー分野のEPCIを遂行できる体制を整えます。この分野で実績を積み、日本のエネルギー・セキュリティ確保へ貢献できるよう挑戦を続けてまいります。

# 財務ハイライト

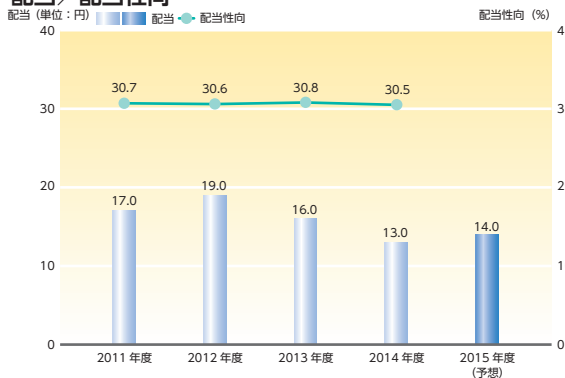
## 受注工事高／完成工事高／受注残高



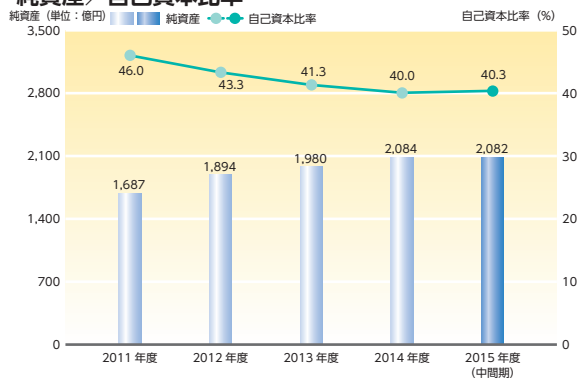
## 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



## 配当／配当性向



## 純資産／自己資本比率

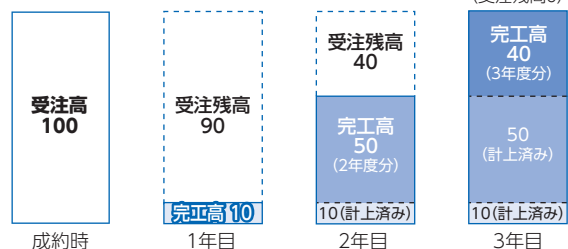


## 一口メモ：受注工事高、完成工事高、受注残高

エンジニアリング企業など受注産業においては、上記表にある「受注工事高（受注高）」「完成工事高（完工高）」「受注残高」の3つが重要な指標となります。

案件の成約時に契約金額を「受注高」として計上し、工事の進捗に伴って「完工高」として計上され利益に反映されていきます。当社が手掛ける工事は通常複数年にわたって行われますので、期末における未完成部分が「受注残高」として認識されることとなります。

たとえば、100億円の案件を工期3年で行う場合・・・



(注) 上記は説明のために簡略化したものであり実際には案件毎に異なります。

## 会社の概況 (2015年9月30日現在)

商号／千代田化工建設株式会社  
(Chiyoda Corporation)  
設立／1948年1月20日  
資本金／43,396,406,450円

### 取締役および監査役

代表取締役社長	澁谷省吾
代表取締役副社長執行役員	中垣啓一
代表取締役副社長執行役員	小川博
代表取締役専務執行役員	川嶋誠人
取締役専務執行役員	長坂勝雄
取締役専務執行役員	児島雅彦
取締役常務執行役員	清水良亮
取締役常務執行役員	佐原新
取締役	山東理二
取締役	田中伸男
常勤監査役	中野宗彦
常勤監査役	小林幹生
監査役	今出川幸寛

## 株主メモ

事業年度  
期末配当金  
受領株主確定日  
定時株主総会  
定時株主総会基準日

### 公告の方法

一単元の株式の数  
上場証券取引所  
証券コード  
株主名簿管理人  
特別口座管理機関  
同連絡先

4月1日から翌年3月31日まで

3月31日

中間配当は実施しておりません。

毎年6月開催

3月31日

そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。

電子公告により行う

公告掲載URL

<http://www.chiyoda-corp.com/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

1,000株

東京証券取引所 市場第一部

6366

三菱UFJ信託銀行株式会社

〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)



### 千代田化工建設株式会社

〒220-8765  
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号  
みなとみらいグランドセントラルタワー  
電話 045-225-7777 (音声案内)  
<http://www.chiyoda-corp.com/>



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



### ■株式に関するお問い合わせ先

- 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等の各種お手続きについて
  - 証券会社等の口座に記録された株式  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - 特別口座に記録された株式  
三菱UFJ信託銀行株式会社 (特別口座管理機関) にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
三菱UFJ信託銀行株式会社 にお問い合わせください。

[三菱UFJ信託銀行株式会社のお問い合わせ先]

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)